



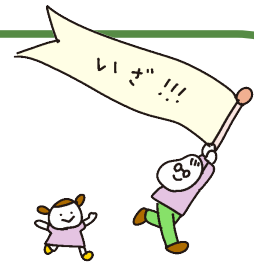
みんなでつくる 重層的支援体制に 向けて



支援関係者のためのガイドブック



目次



第1章 地域共生社会を目指して	2
・ 包括的な支援は、ケアに関わるすべての人のための取り組み	5
・ 複雑化・複合化する世帯の問題	7
第2章 重層的支援とは	12
・ 重層的支援をつくる5つの事業	13
・ 包括的相談支援事業	15
・ 多機関協働事業	17
・ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	19
・ 参加支援事業	21
・ 地域づくり事業	23
・ 重層的支援の流れ	25
・ 支援会議とは？	27
第3章 「Libero かまくら」の役割	30
・ 対応の内容と流れ	31
・ 父親が家族のケアで疲弊している世帯	31
・ 認知症とひきこもりの状態にある方とともに 生活困窮に直面する8050世帯	33
・ 身体障害、不登校、ひきこもりなど 家族がそれぞれ課題を抱えている世帯	35
「多機関協働事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、 参加支援事業の「終結」の基準は？」	36
包括的相談支援事業者一覧	37



第 1 章

地域共生社会を目指して

包括的な支援は、 ケアに関わる、 すべての人のための取り組みです

これまでの福祉制度・施策

子ども・障害者・高齢者といった対象者の属性や要介護・虐待・生活困窮といったリスクごとに制度を設け、現金・現物給付の提供や専門的支援体制の構築を進めることで、**私たちの福祉は、質・量ともに充実**してきました。

個人の課題から世帯全体の課題対応へ

しかし近年、社会的孤立をはじめとして、生きる上での困難さ・生きにくさがあっても、既存の制度の対象となりにくいケースや、いわゆる「8050」問題やダブルケア、ヤングケアラー、不登校など、複数の生活上の課題を抱える人や世帯が増えています。そのため、従来の子ども・障害者・高齢者・生活困窮者といった**対象者ごとの支援だけではなく（縦割り）、住民が持つさまざまなニーズを分野を越えてつな**がる対応が求められています。

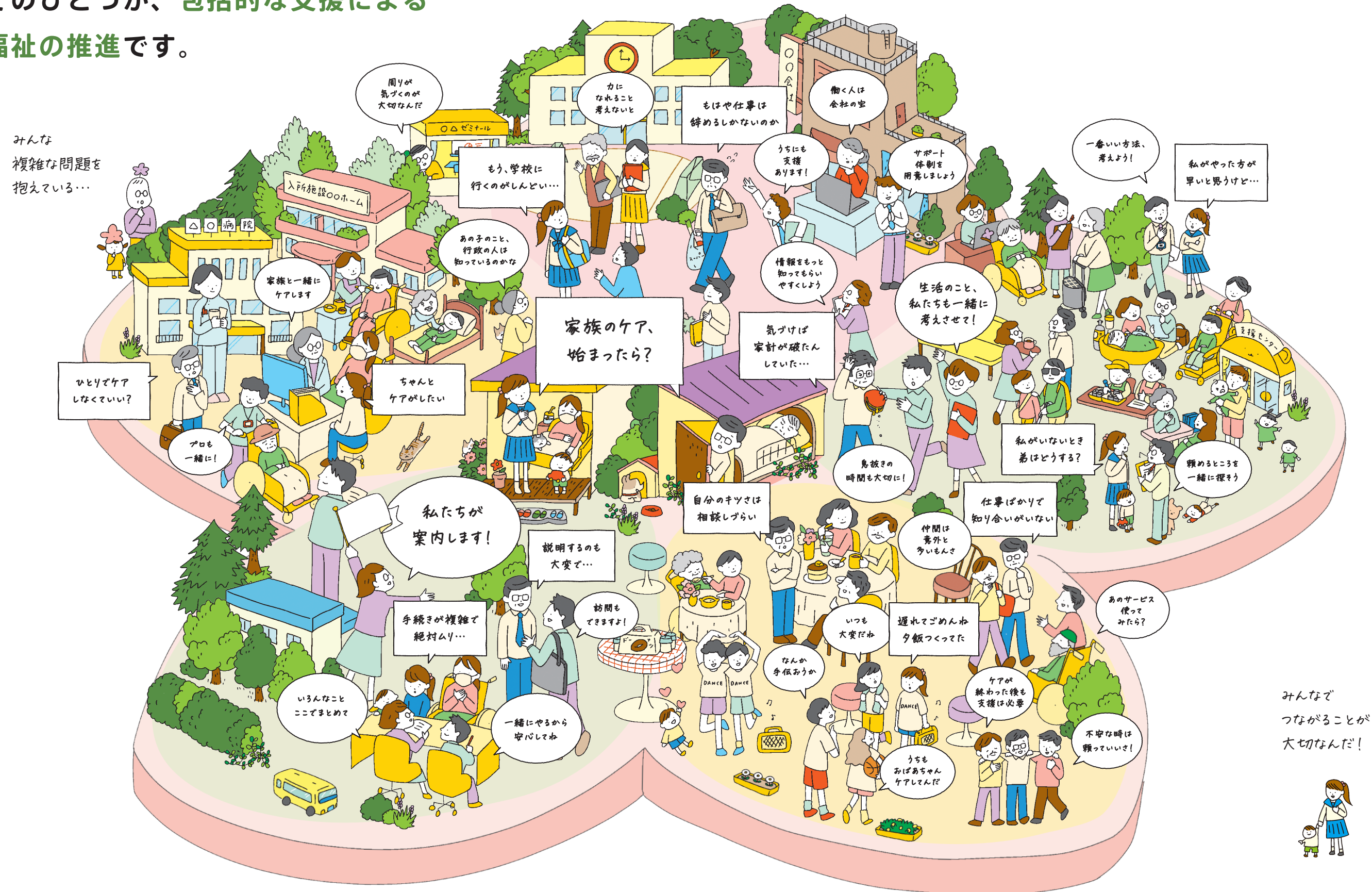
地域共生社会の実現に向けて

住民のニーズが多様化し、これまでの社会構造が変化する中で、「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが行われています。

「地域共生社会」とは、これまでの「縦割り」や「支え手」「受け手」という枠で捉えるのではなく、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『**丸ごと**』**つな**がる社会のことを指します。

地域共生社会の実現には、「**包括的な支援**」が不可欠で、その体制を構築するための事業が「**重層的支援体制整備事業**」です。

そのひとつが、**包括的な支援による福祉の推進**です。



実現したいもの

地域共生社会



地域福祉の推進

地域生活課題の
把握・連携による
解決に向けた取り組み



そのために
必要なこと

地域住民への 包括的な支援

「包括的な支援」を構築するための事業



重層的支援体制整備事業

複雑化・複合化する 世帯の問題



ひとつの家庭の「困難」に、
複数の問題がからみ合っていることがあります。

「問題が多すぎて、抱えきれない」
家庭の中では、そんな状況になっていることも多いのです。

しかし、その問題は気づかれないままになったり、
気がついていても対応できない状況だったり
あるいは一部の支援者だけに大きな負担がかかってしまったり…
そんなことが、いま、社会のあちこちで起こっています。



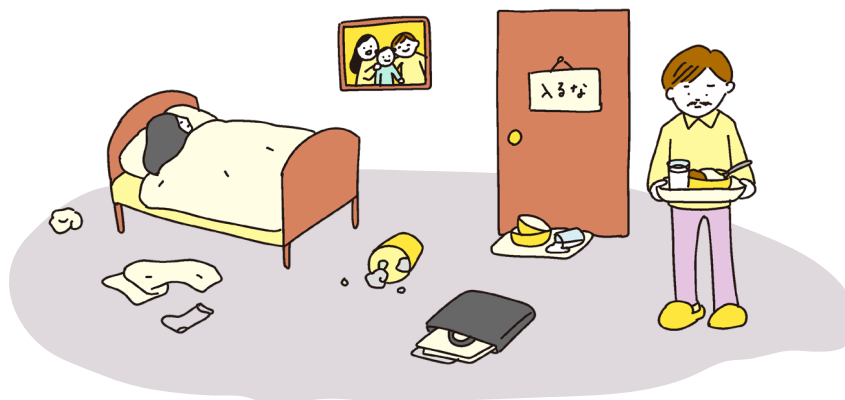
必要な支援が、**バランスよく**揃っている。
関係者が**チーム**になり、**連携**しながら、**支え続けられる**。
そんな体制ができると、家庭をしっかりと支えていくことができます。



複雑化・複合化した問題を抱える世帯とは、 たとえば、こんなケースを指します。

※具体的な対応の内容と流れは p.31 ～ 36 を参照

●父親が家族のケアで疲弊している世帯



世帯の構成

父親：会社員、母親と長女の世話を行う

母親：うつ病（精神障害者福祉手帳2級、障害サービス利用なし）

長女：いじめから不登校となり、通信制高校に進学するがほとんど学校に行けていない

世帯の状況

父親はダブルケアで疲弊しているが、どこに相談して良いか悩んでいる。母親は、障害により家のことができない。一日中家にいて他に行く場所がない。長女は、夜など人が少ない時間に近所のコンビニに行くくらいで、ほとんど外出しない。

起こっている課題

複数の課題を抱えている家庭。父親が一家の支えになり他者を頼らず一人ではがって来たため、表面化していなかった。しかし、父親が次第に家族を叱責するようになり、家庭内の雰囲気や家族の心身状態が悪化。父親は他人に知られたくないという思いから、どこにも相談できない状況。

●認知症とひきこもりとともに生活困窮に直面する 8050 世帯

世帯の構成

母親：80 歳。最近になって認知症を発症した

長男：50 代で長年ひきこもりの状態にある

世帯の状況

父親は 10 年前に他界。長男は 20 代で仕事を辞め、それ以来ひきこもり、収入は父親の遺族年金のみ。貯金も底を付き、わずかな年金に頼る生活。そんな中、母親が認知症を発症。

起こっている課題

民生委員からの連絡により市役所とつながり、はじめて周囲がその家のことを把握。家の中はゴミがあふれ、臭いもひどい。ライフラインがつながっているか不明。2 階で物音がするが呼びかけても返事がない。経済的な困窮や長男に対する精神的なケアも必要。母親が倒れ施設などに入所した場合、このままでは長男と社会の接点がなくなる心配あり。

●身体障害、不登校、ひきこもり、障害の疑いなど 家族がそれぞれ問題を抱えている世帯

世帯の構成

父親：無職、ケガにより身体障害になる

母親：パート勤務で家計を支える

長男：高校卒業後、自宅にひきこもり気味、障害の疑いがある

長女：中学生、父親と長男の世話をしている（ヤングケアラー）

起こっている課題

父親は転倒し脳出血。ケガによる身体障害で仕事を辞めて以来、自宅に閉じこもり気味。長男は他者とうまく関われず、自宅から出ることはほぼない。母親が家族を一人で抱えている状態。このままでは疲弊し倒れてしまう可能性も…。長女は、つらそうにしている母親の代わりに父親や長男の世話をすることがあり、ヤングケアラーとなっている。

一番いい方法、
考えよう



私がやったほうが
早いと思うけど...

家族と一緒に
ケアします



ちゃんとケアが
したいんです

手続きが複雑で
絶対ムリ...



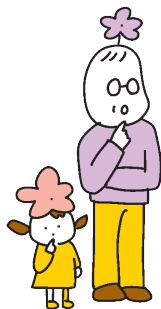
まずはここで
相談してみて

私がいなくて、
弟はどうすれば...

頼めるところ
一緒に探そう



このさまざまな支援を、
さらに支えていく体制が
必要なんだね





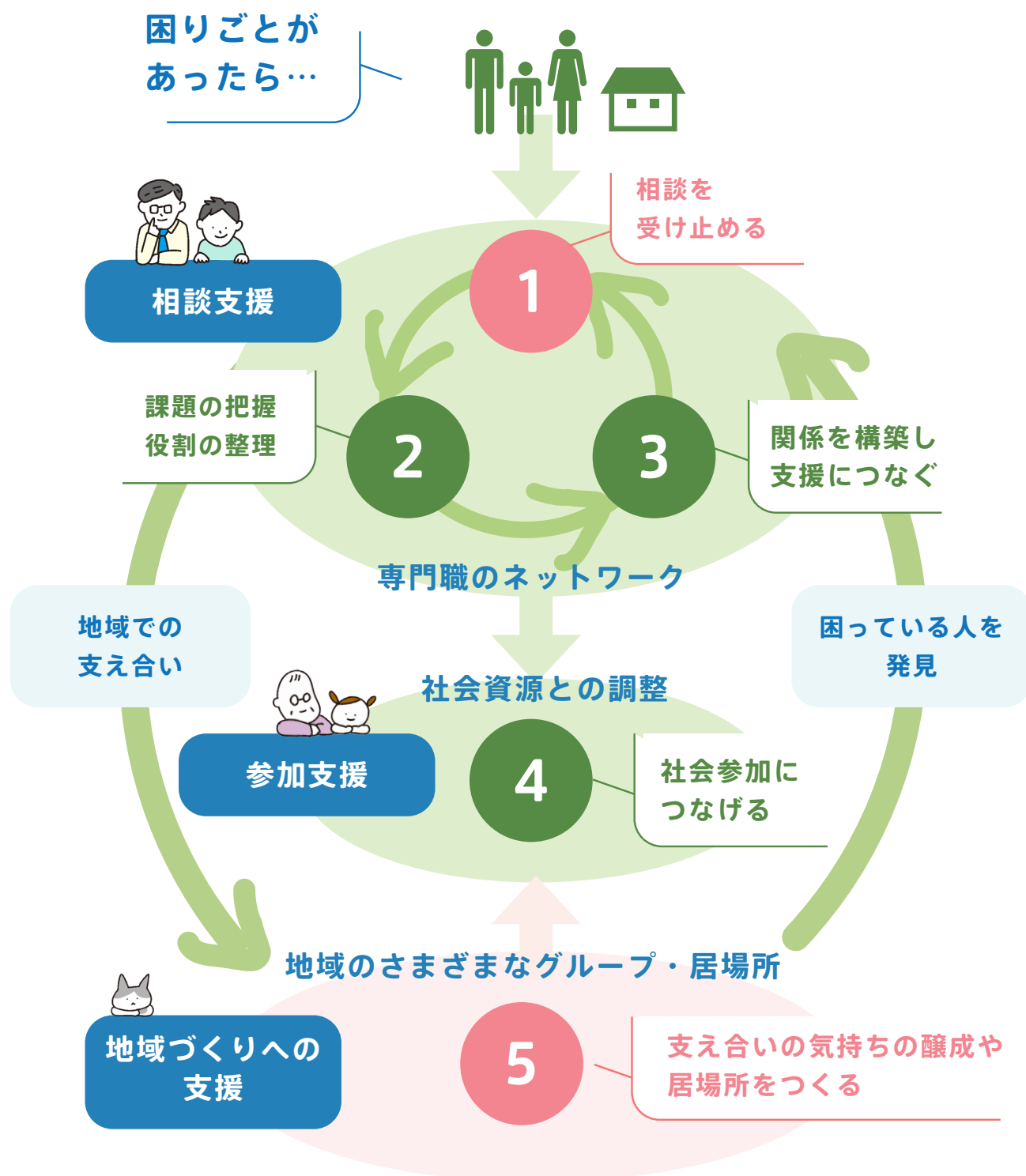
第 2 章

重層的支援体制とは

重層的支援体制の核は、支援者の皆さんを含む「**多機関協働**」です。
「**多機関協働**」によって、今までは支えきれなかった部分を、みんなで支え合える体制ができるのです。さらに、気づかれにくい問題にも対応する「**アウトリーチを通じた継続的支援**」、社会とつなげる「**参加支援**」など寄り添い続けるしくみをつくります。

また、重層的支援体制の軸は、相談支援と地域づくりへの支援の循環です。困っている人を福祉サービスや地域での支え合いにつなげつつ、地域で新たに困っている人を発見・支援します。

重層的支援体制をつくる 5つの事業



1 包括的相談支援事業

相談者の属性に関わらず丸ごと相談を受け止め、相談者の課題を整理し、利用可能な福祉サービス等の情報提供等を行います。

受け止めた相談のうち、単独の相談支援事業者では対応や解決が難しい事例は、他の相談支援事業者や各種支援機関と連携を図りながら適切につなぎ、支援を行うことにより、断ったり、たらい回しにしたりしない包括的な相談支援を担います。

2 多機関協働事業

複雑化・複合化した事例に対応する支援関係機関等が抱える課題を把握し、各支援関係機関等の役割の整理、支援の方向性の整理といった、事例全体の調整を行います。

3 アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

複雑化・複合化した課題を抱えながらも必要な支援が届いていない人、既存制度や事業（生活困窮者自立支援制度やひきこもり支援等）による対応ができない人に、支援を届けます。

必要な支援が届いていない人とのつながりを形成すること自体が困難である場合は、まずは、時間をかけた丁寧な働きかけを行い、信頼関係をつくれます。

4 参加支援事業

既存の社会参加に向けた事業では対応できない個別ニーズに対応するため、支援を必要とする人やその世帯に寄り添い、地域の社会資源との間の調整を行うことで、社会参加を支援します。

5 地域づくり事業

地域資源を幅広く把握した上で、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を整備すること、交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートすること、地域のプラットフォームの形成や、地域における活動の活性化を図り、多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行います。

1

包括的相談支援事業

包括的相談支援事業は重層的支援体制整備事業の入口であり、支柱。
鎌倉市では 16 カ所の機関が担っている部分です。

包括的相談支援事業を担う支援機関

属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める支援

相談者の属性に関わらず包括的に相談を受け止め、相談者の課題を整理し、利用可能な福祉サービス等の情報提供等を行います。また、受け止めた相談のうち、単独の相談支援事業者では解決が難しい事例（専門分野外の相談等）は、適切な相談支援機関や各種支援関係機関と連携を図りながら支援を行います。

高齢分野



地域包括支援センター

10 カ所（p.37 を参照）

障害分野



障害者相談支援事業

4 カ所（p.37 を参照）

児童分野



利用者支援事業

こども家庭相談課

かまくらこども相談窓口きらきら

生活困窮分野



生活困窮者自立相談支援事業

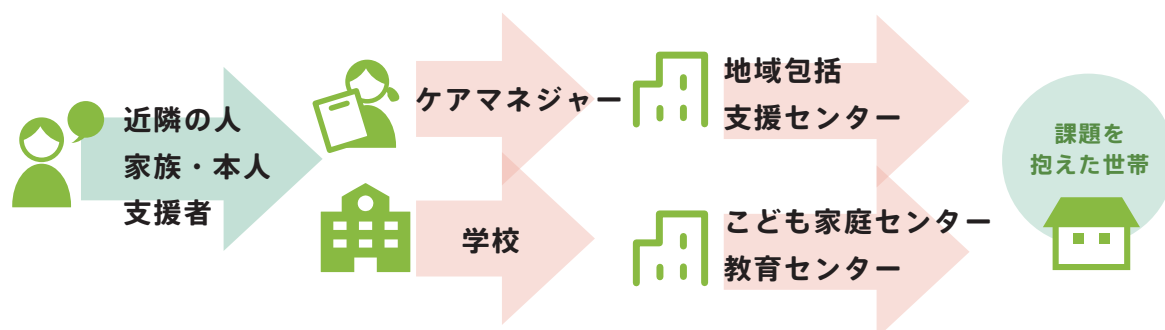
インクル相談室鎌倉

重層的支援体制との関係性

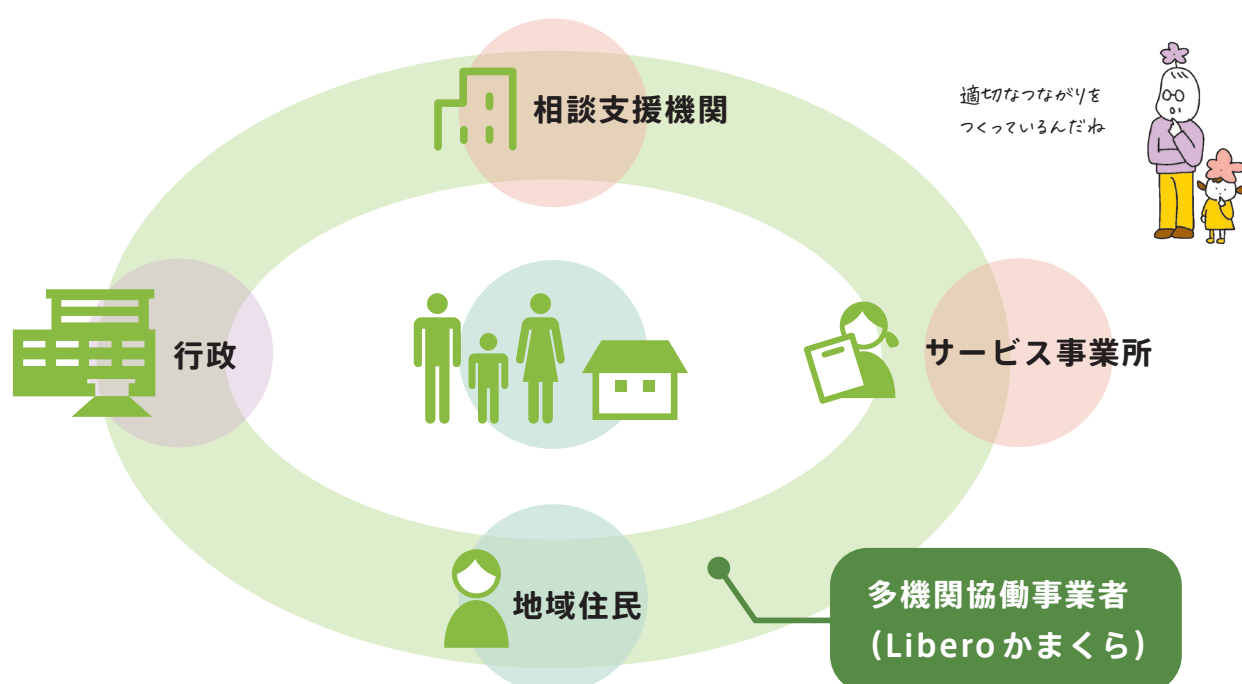
相談者が複雑化・複合化した支援ニーズを抱えており、支援関係機関の役割分担を整理する必要がある場合や、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」・「参加支援事業」の対象になることが想定される場合は、包括的相談支援事業者から多機関協働事業者（Libero かまくら）に支援を依頼します。

包括的相談支援事業に携わっている支援機関は、
重層的支援において、**入口となり柱となる存在**です。

現在、相談から支援までがこのようなしくみだとしたら、



多機関協働事業者（Libero かまくら）が加わり、
課題全体の把握、適した支援の整理を行うことで
無理のない役割分担で、必要な支援を行き届かせる体制を目指します。



2

多機関協働事業

重層的支援のつながりをつくる核です。

相談支援機関が抱える複雑化・複合化したケースに対し、
役割や支援の方向性といった、ケース全体の調整を行います。

多機関協働における Libero かまくらの役割

世帯全体の
支援の方向性の
整理

各支援関係
機関等の
役割のひもとき

支援関係機関等の
抱える問題の
見える化

Libero かまくらが担うのは「支援機関のサポート」。
さまざまな支援者が、複雑なケースに出会っても自分の役割を把握し、
ときには役割を越えて協力し合えるしくみを支えます。

知りたい
ところ

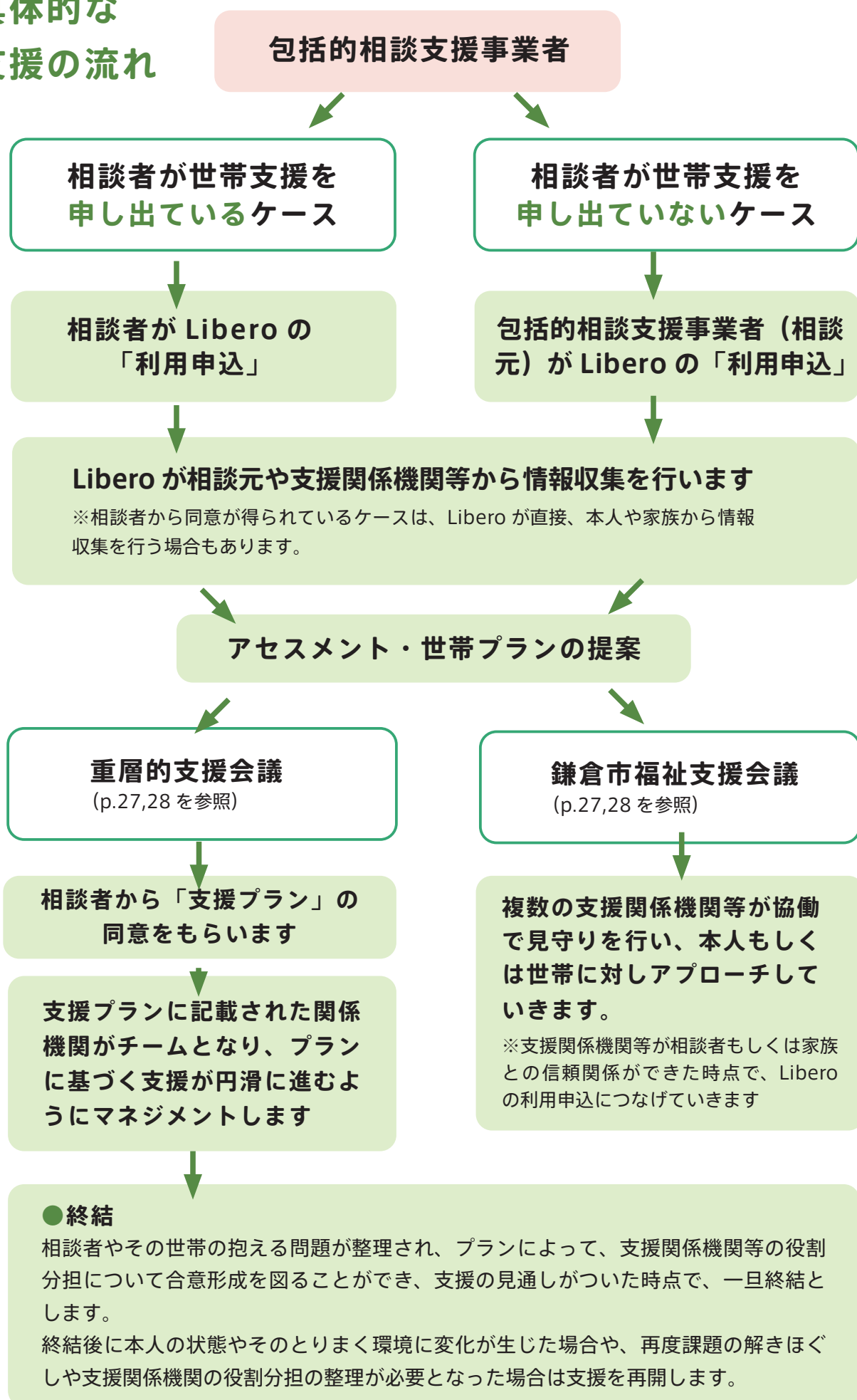
どんなときに Libero に相談する？

各事業所はキャッチした問題について、さまざまな支援を考えたり、試行錯誤したりされていると思います。その過程で「この分野との関係はどうつくっていいのかな」「何かありそうだけれど、まだアウトリーチできていない」などの状況に出会ったら、事業所内で話し合い、多機関協働事業者（Libero かまくら）へつなぐことを検討していただければと思います。





具体的な 支援の流れ



3

アウトリーチ等を通じた 継続的支援事業

複雑化・複合化した課題を抱えているため、
必要な支援が届いていない人に支援を届けるための事業です。

Libero かまくらのアウトリーチの対象となる例

必要な支援が
届いていない人

各機関で困りごとを
把握しているが、
支援受入れに拒否的な

Libero かまくらでは、
支援につながりにくい人など複雑化・複合化した課題のある人、
とくに従来の支援の網から見過ごされがちなケースに
積極的に関わり、支援につながります。

アウトリーチの対象になる人の例



大人のかわりに
家事全般を担っている
ヤングケアラー



親に病気の
自覚がなく支援を
拒絶している家庭



問題があることが
誰にも気づかれて
いない人

具体的な支援の流れ

Libero かまくらでは、次のような
アウトリーチによる継続的支援によって、
重層的支援体制を支えることを目指しています。



相談支援機関や地域住民等の地域の関係者との連携を通じた情報収集

相談支援機関等との連携や地域住民とのつながりを構築し、複雑化・複合化した課題を抱えながらも必要な支援が届いていない人を把握します。

事前調整

必要な支援が届いていない人を見つけても、本人が支援を受け入れる準備がない事例も多いです。そのため、本人に必要な支援を届ける前の支援として、相談支援機関等からの情報収集や、見守り等の支援ネットワークの構築、本人と関わるためのきっかけ等を入念に検討します。

●支援の申し出が得られないケースの場合 相談支援機関等が「相談受付・申込票」を記入し、Libero かまくらが申込を受けプランを作成し、鎌倉市福祉支援会議において支援プランの適切性を協議します。

関係構築に向けた支援

本人やその世帯とのつながりを形成するために、手紙やメール等でのやりとり、支援情報をチラシ等で情報提供するなど、時間をかけた丁寧な働きかけを行います。

家庭訪問や同行支援

本人とつながりを形成した後も、自宅から出ることが困難な方や他の支援関係機関につながる事が困難な場合は、自宅への訪問や必要な機関への同行などの支援を行います。

本人との信頼関係を構築し「相談受付・申込票」でアウトリーチ等を通じた継続的支援事業の申込を受けたのち、支援プランを作成します。作成したプランは重層的支援会議において適切性を協議します。

終結

本人にとって適切な支援関係機関や地域の関係者等につなぎ、それらの関係性が安定した段階で、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の支援を終結します。

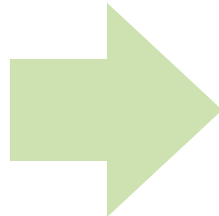
4

参加支援事業

社会に参加するのが難しく、社会から孤立して
困っている人の社会参加を支援します。

Libero かまくらが行う参加支援のしくみ

本人や世帯の
ニーズ・抱える課題等を
ていねいに把握

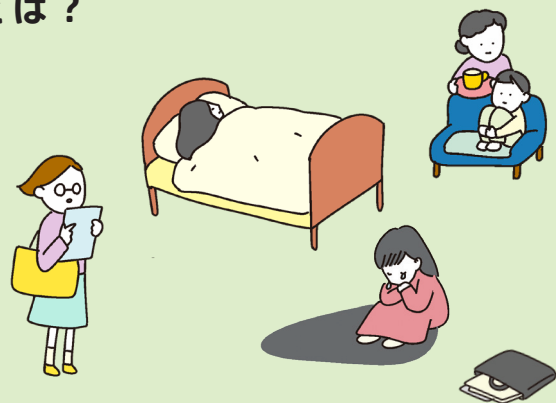


地域の社会資源や
支援メニューとの
コーディネート・
マッチング

社会参加に難しさを抱える方が対象です。

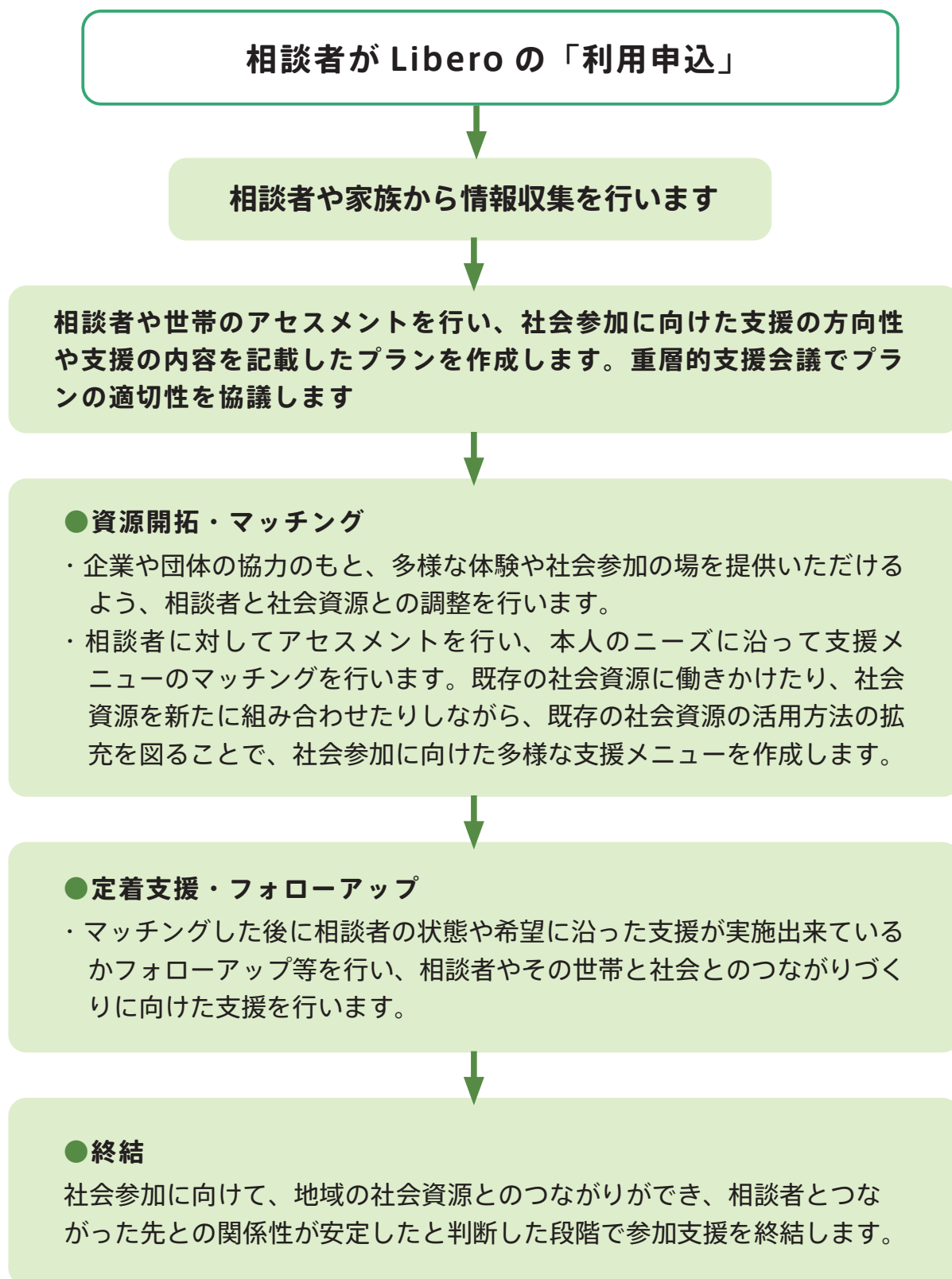
社会参加に難しさを抱える方とは？

- 安心して過ごせる場を
自分で見つけにくい方
- ひきこもりなど、
支援が届きにくい方
- 社会に出て傷ついた方
…など



具体的な 支援の流れ

Libero かまくらは、次のような流れで、
従来の社会参加に向けた事業につながりにくい方を
社会参加につなげます。



※参加支援事業は、その事業の性質上、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業における信頼関係の構築、多機関協働事業における課題の整理などが出来たのち、支援プラン及び支援実施につながる場合が多いと想定しています

5

地域づくり事業

これまでの地域づくり事業に関する各分野の取り組みを活かしつつ、各分野における事業が一体的に実施されることにより、世代や属性に関わらず、地域住民の方々を広く対象とし、多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行います。

世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備する

各事業が対象とする高齢者・障害者・子育て中の親子・生活困窮者の居場所を確保した上で、すべての地域住民を広く対象として、地域における交流の場や居場所の確保を進めます。

交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする

地域住民の創意や主体性を支えつつ「人與人」、「人と社会資源」をつなぎ、顔の見える関係性や気かけあう関係性が地域で生まれやすくなるよう働きかけます。

地域のプラットフォームの形成や地域における活動の活性化を図る

人、場、活動、サービス、情報等の地域の社会資源がつながり、地域における様々な活動の継続や次の展開に向けて働きかけることを目的として、地域の多様な主体が情報交換や協議をすることができる場・機会を設定します。

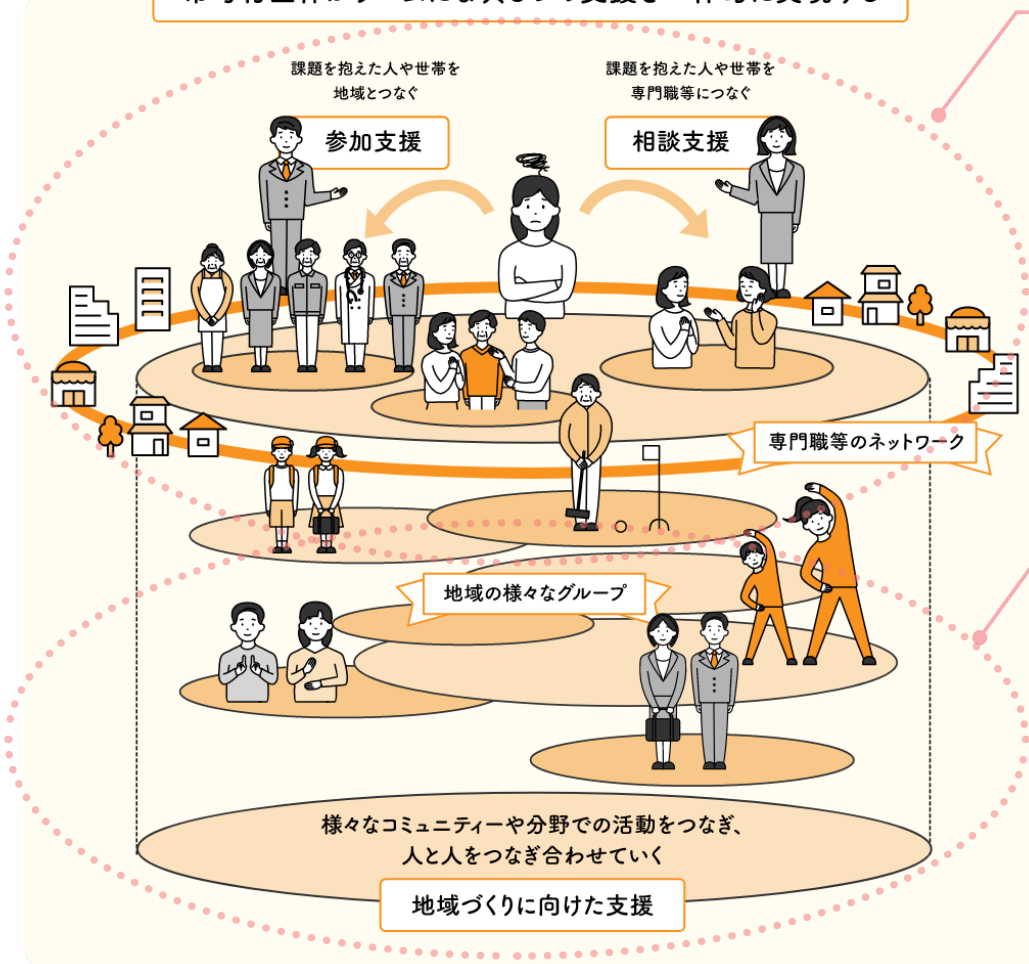
●地域づくり事業における4分野（5事業）

分野	事業名
高齢	地域介護予防活動支援事業
	生活支援体制整備事業
障害	地域活動支援センター事業
子ども	地域子育て支援拠点事業
生活困窮	生活困窮者等のための地域づくり事業



相談対応と地域づくりの一体的な取り組みイメージ

市町村全体がチームになり、3つの支援を一体的に実現する



相談対応

- 属性や世代を問わない相談を多様な相談支援事業所が受け止め、多機関で連携することで、支援を必要とする人や世帯の発見・支援につなげる
- アウトリーチにより関係を構築しながら伴走し、相談の受付、支援へのつなぎ、社会参加への支援まで一貫して対応する

地域づくり

- 世代や属性を超えて交流できる場や居場所を創設し、社会的孤立に陥りがちな人や世帯が安心できる場を確保する
- 様々な人や活動、場をコーディネートし、交流・参加・学びの機会を生み出す
- 人々の新たなつながりを促進するインクルーシブな地域をつくる

(出典) 地域共生社会のポータルサイト (厚生労働省) のイラストを一部改変
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>

連携・循環による一体的な取り組み

1. 「相談対応」で出会った個別のケースから、地域課題と考える要素や事例を把握し、地域に共通する課題を抽出する。
2. 「地域づくり」では、地域課題と認識されたものについて、その発生原因や影響度合いをアセスメントし、対策の優先順位をつける。その上で、地域での資源開発、事業化を含めた政策形成など解決方策を検討し、協力者と実行する
3. 「地域づくり」で開発された資源（場・取組）を通じ、「相談対応」が必要な市民を新たに発見、支援につなげる（1に戻る）。

支援の流れ

役割を適切につなげることで、重層的支援の体制をつくっていきます。

1 身近な人が、包括的相談支援事業者に相談。

市内で支援にあたる事業者が、最初の相談に対応。最初の入口です。

- 身近な人とは
 - ・ケアマネジャー
 - ・民生委員
 - ・近隣住民
 - ・ご家族 …など

家庭に問題がありそう。
でも何をしたらいいんだろう…



なるほど、もう少し伺えますか？

- 包括的相談支援事業にあたる方々 (p.37 を参照)

2 包括的相談支援事業者が、Libero かまくらに相談。

経済的に困窮、娘さんはだいぶ具合が悪いみたい。お子さんも不登校かもしれない状況です



それぞれの分野の支援会議で対応してみたいけど…多機関協働も検討しようか

包括的相談支援事業者で協議し、多機関協働が必要だと判断したら Libero かまくらにケースの詳細を伝え、相談します。

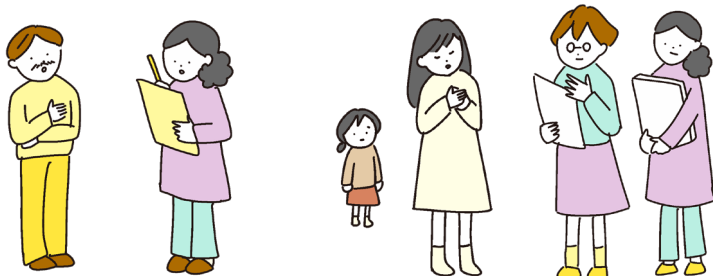
3 Libero かまくらで関わり方を検討し、支援を開始。

情報をとりまとめてどんな支援が必要か、Libero でも考えてみます。



複雑化・複合化したケース、既存の社会参加に向けた事業では社会とつながりにくいケースなどで、Libero の介入が必要と判断した場合、次のステップに進みます。

4 本人もしくは家族の意向確認を、包括的相談支援事業者が行う。



困りごとに応える、
こんな支援があります。
連携のために、
他の事業者にも、
情報を共有しても
よいでしょうか？

5 支援会議にて適切な支援方針等について協議する。

本人もしくは家族が支援を望んでいる場合

支援してほしいです。
何をしていったら
いいですか？
こんなことも困ってて…



さまざまな
機関が
協力しながら
支援します！

重層的支援会議

(p.27、28 を参照)

気持ちに
寄り添いながら
対応してい
くんだね



本人もしくは家族に困り感がない、 支援に拒否的なため介入ができない場合

私は病気
じゃないから
支援は必要
ないんです



Libero が
アウトリーチを
行います。
少しずつお話を
聞かせてください。

鎌倉市福祉支援会議

(p.27、28 を参照)

「支援会議」とは？

各分野の支援会議

児童分野 (児童福祉法)

会議名：要保護児童対策
地域協議会
担当課：こども家庭相談課

高齢分野 (介護保険法)

会議名：地域ケア個別会議
担当課：高齢者いきいき課
(地域包括支援センターが原則として開催)

生活困窮分野 (生活困窮者自立支援法)

会議名：支援調整会議
担当課：生活福祉課
(インクル相談室鎌倉が原則として開催)

障害分野 (障害者総合支援法)

会議名：障害分野の支援会議
担当課：障害福祉課

単独の相談支援事業所では解決が難しい場合、適切な相談支援事業所や各種支援機関と連携し支援方法を検討します

既存の会議体で対応が難しいケース

本人もしくは家族の
同意が得られている場合

会議名：重層的支援会議
担当：Libero かまくら

本人もしくは家族の
同意が得られていない場合

会議名：鎌倉市福祉支援会議
担当課：福祉総務課

※鎌倉市福祉支援会議ではなく、各分野の支援会議
を活用し検討することもあります

「支援会議」は、関係各所とともに
情報を共有し、連携し、
適切な支援プランを作成するなどを行う場です。

① 重層的支援会議

(本人もしくは家族の同意が得られた場合)

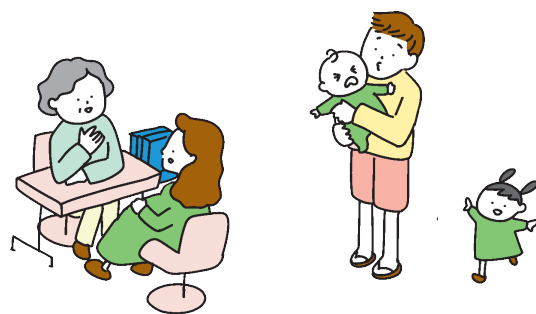
- Libero かまくら（多機関協働事業・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業・参加支援事業）が作成した支援プランの適切性を判断します。
- 支援プラン終結時等においては、支援の過程と成果を評価し、支援関係機関の支援を終結するかどうかを検討します。
- 個々のニーズに対応する社会資源が不足していることを把握した場合には、地域の課題として位置付け、社会資源の開発に向けた取組みを検討します。
- 会議の参加者は、原則、Libero かまくら、各相談支援事業者及び市（福祉総務課）を必須とし、事例の内容に応じ、本人やその世帯をとりまく地域の関係者に参加してもらうこともあります。

② 鎌倉市福祉支援会議

(緊急時など、本人もしくは家族の同意が 得られない場合)

●鎌倉市福祉支援会議では以下のことを行います。

- 情報提供、情報共有、相談支援機関等のつながりの構築、課題の整理・支援方針の検討など、相談支援機関等とともに現状の整理を行い、ケース対応への検討を行います。
- Libero かまくら（多機関協働事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業）が作成した支援プランの適切性も判断します。





第 3 章

「Libero かまくら」の役割

Libero かまくら（相談支援包括化推進業務）の役割

複雑化・複合化した課題を抱える個人や世帯に対して、これまでも、包括的支援事業所をはじめとする支援関係機関等の皆さまは、関係者によるカンファレンスやケース会議を開催しながら、支援方針等を協議しつつ、取組みを進めてきたものと思います。

重層的支援体制が整備され、Libero かまくらが支援の輪に加わりました。支援関係機関等がよりスムーズに連携でき、よりよい役割分担が図られ、特定の支援関係機関等に負担がかかりすぎたり、課題を抱え込んだりすることがないように、支援を行っていきます。

Libero かまくらが目指す「重層的支援」

- ① 複雑化・複合化した課題を抱えながらも支援が届いていない方へのアウトリーチを担う
- ② 複雑化・複合化した課題の解きほぐし
- ③ 事例全体において分野間のつなぎや調整機能の役割を担う
- ④ 地域の社会資源等と連携し、本人やその世帯が社会とのつながりを作るための支援を行う

対応の内容と流れ

● 父親が家族のケアで疲弊している世帯

父親からの相談がきっかけで支援を開始

把握した 状況

父親が母親、長女の世話（ダブルケア）で疲弊しており、何処に相談して良いか分からず、市に相談した。その後、「複雑な課題を抱えている家族がいる」と市から Libero に相談があり、Libero と父親が面談を行い、アセスメントした結果、家族が抱えている課題や世帯状況が分かってきた。（この時点で「相談受付・申込票」に記入してもらう。）

世帯の状況

3人世帯（父親・母親 50 代、長女 20 歳）

父親：会社員

母親：うつ病（精神障害者福祉手帳 2 級、障害サービス利用なし）

長女：中学校時代に不登校となり、学校に通えないまま卒業。通信制高校に進学するが、精神的な不調により、ほとんど学校には行けていない。

支援の流れ

①長女を含む世帯が抱えている課題の整理を行い、課題解決に向けた支援機関の検討や役割分担などを関係者と話し合いを行います。（多機関協働事業）

②母親・長女との信頼関係を築くために自宅訪問を行います（アウトリーチ等を通じた継続的支援事業）

③課題の整理、支援機関の役割分担が定まった段階で世帯支援プランを作成し、重層的支援会議において世帯支援プランの適切性の協議を行ったのち、父親に署名をもらいます。（多機関協働事業）

※この時点で母親の障害サービス利用に向け、計画相談支援事業所と

それぞれの状況や課題によって対応はさまざま。

ここでは、ケースによって Libero かまくらと各支援がどのような内容で連携し、どのように進めるかを例をもとにご紹介します。

支援の流れ



父親が話し合いを行う。

④長女との関係性が構築され、長女の意欲が少しずつ出てきた段階から、参加支援事業の支援プランを作成し、重層的支援会議において、支援プランの適切性の協議を行います。（アウトリーチ等を通じた継続的支援事業から参加支援事業へ）

⑤支援プランに基づき、地域の社会資源や支援メニューとのコーディネートをし、マッチングを行います。マッチングした後に長女の状態や希望に沿った支援が実施出来ているかフォローアップ等を行い、長女やその世帯と社会とのつながりづくりに向けた支援を行います。（参加支援事業） ※状況に応じて、母親への参加支援を行います

⑥支援の終結

Libero かまくらができる支援とその範囲

多機関協働

- ・ 支援機関にアセスメントし、課題整理
- ・ 課題解決に向けた支援の方法や、役割分担（役割の明確化）についてみんなで話し合う場（重層的支援会議）を設定
- ・ 支援プランを作成

アウトリーチ

- ・ 母親・長女との信頼関係を築くために、市・教育センターと役割分担しつつ自宅訪問を行う
- ・ 状況に応じ病院への通院同行を行う
- ・ 必要に応じ支援プランを作成

参加支援

- ・ 長女との信頼関係が構築され、意欲が少しずつ出てきた段階から、適切な支援プランを作成（重層的支援会議において、適切性を協議）
- ・ 本人のニーズに沿った社会資源とのマッチングを行う
- ・ 新たな環境に居場所を見つけたあとも、定期的に訪問するなど一定期間フォローアップを行う

認知症とひきこもりの状態にある方とともに 生活困窮に直面する 8050 世帯

民生委員から市への相談をきっかけに支援を開始

開始までの 状況

民生委員から「気になる家がある」と市役所に相談が入った。市の職員が訪問したところ、80 代くらいの女性が出てきたが名前や住所を聞いてもうまく答えられなかった。家の中にはゴミがあふれ、臭いもひどかった。ライフラインがつながっているかも分からなかった。2 階から物音はするものの、呼びかけても返事がなく、**世帯の把握が難しい状況**だった。複雑な課題を抱えている世帯のため、Libero に相談が入った。家族の状況を知るため、**地域包括支援センターや町内会長に聴き取り**をしたところ、この世帯を昔からよく知る住民から話を聴くことができた。

世帯の状況

2 人世帯（母親 80 代、長男 50 代）

母親：認知症

長男：長年ひきこもっている

父親：10 年前に他界。その頃からゴミ屋敷になっている

支援の流れ

- ①潜在的なニーズを抱える人を早期に発見するために、日頃から支援関係機関や地域住民等の関係者と連携し、つながりの中から相談や課題を把握します。
- ②支援ニーズを抱えている人やその世帯に確実に支援を届けるために丁寧な情報収集を行い、直接自宅に訪問することで関係性を構築するための方策を検討します。
- ③地域や他者とのつながりが希薄化していることが想定される場合は、時間をかけて本人や世帯に寄り添い、世帯を取り巻く人間関係の拡充を図りながら継続した支援を行います。

※本人との関係構築が進まず、支援関係機関等との情報共有や役割分担が進まない、または予防的・早期の支援が必要にも関わらず体制整備が進まない場合は、鎌倉市福祉支援会議等で、支援の方向性や支援方法の妥当性について検討します。

支援の流れ

- ④本人からの同意が得られない場合でも、支援が必要と考えられる本人や世帯に対して、本人の状態に合わせて関わりを持ち続け、関係性が途切れないよう支援します（ひきこもり支援員と連携）。



Libero かまくらができる支援とその範囲

アウトリーチ

- ・ 市の職員と訪問し、母親から話を伺う
- ・ 母親との信頼関係を構築し、世帯全体のアセスメントを行う
- ・ ひきこもりの長男を、ひきこもり支援員につなぐ
- ・ 課題が複雑化している場合、多機関協働事業へつなぐ
- ・ 必要に応じ支援プランを作成

多機関協働

- ・ 課題の整理
- ・ 課題の共有、課題解決に向けた支援機関の関わりや、役割分担（役割の明確化）についてみんなで話し合う場（**鎌倉市福祉支援会議**）の設定を依頼
- ・ **鎌倉市福祉支援会議**で今後の支援を協議

参加支援

- ・ ひきこもり支援員と連携し長男のニーズに沿った社会資源とのマッチングを行う
- ・ 母親にも居場所やつながる先が必要な場合、社会資源を探す
- ・ 新たな環境で居場所を見出した長男や母親に対し、定期的に訪問するなど一定期間フォローアップを行う



身体障害、不登校、ひきこもりなど 家族がそれぞれ課題を抱えている世帯



担任教諭からの相談がきっかけで支援を開始

開始までの 状況

長女が学校を休みがちとなっていたことから、担任教諭が母親に連絡。担任教諭と母親が面談を行ったところ、「母親が、父親と長男のことで悩んでいて、疲れ切っている様子だった」母親から「私が仕事に行っている間、長女が二人の世話をすることもある（ヤングケアラー）」との話もあった。話を聞いた担任教諭は、母親の困りごとが多岐にわたるため、教育センターに相談しスクールソーシャルワーカー（SSW）が母親と面談することになった

世帯の状況

4人世帯（父親・母親 40 代、長男 22 歳、長女 14 歳）
父親：転倒によるケガから身体障害。現在無職
母親：パート勤務で家計を支える
長男：通信制高校を卒業後、自宅にひきこもり気味
長女：中学 3 年生。父親と長男の世話をすることがある（ヤングケアラー）

Libero かまくらができる支援とその範囲

アウトリーチ

- ・ 世帯状況をアセスメントするため、SSW と同行で母親と面談（母親が疲弊している場合、少しずつ関係を構築）（この時点で「**相談受付・申込票**」に記入してもらう）
- ・ 母親との信頼関係が構築された段階で、家族へのアプローチを検討
- ・ 父親、長女との関係性が構築され、ニーズを把握できた段階で、ニーズに合った支援機関につなぐ
- ・ ひきこもり気味の長男に対しては、ひきこもり支援員につなぐ
- ・ 必要に応じ支援プランを作成

多機関協働

- ・ 課題の整理
- ・ 課題解決に向けた支援機関の関わりや、役割分担（役割の明確化）についてみんなで話し合う場（**重層的支援会議**）を設定
- ・ 世帯支援プランを作成

参加支援

- ・ ひきこもり支援員と連携し長男のニーズに沿った社会資源とのマッチングを行う
- ・ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業・多機関協働事業において、父親、長女にも居場所などが必要になった場合、社会資源を探す

多機関協働事業、 アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、 参加支援事業の「**終結**」の基準は？

多機関協働

当事者やその世帯の課題が整理され、支援の見通しがつき、支援プランによって、支援関係機関等の役割分担ができた時点で終結とします

アウトリーチ

当事者にとって適切な支援関係機関や地域の関係者等につなぎ、それらの関係性が安定した段階で終結とします

参加支援

社会参加に向けて、地域の社会資源とのつながりができ、当事者がつながった先との関係性が安定したと判断した段階で終結とします



包括的相談支援事業者一覧

高齢分野

地域包括支援センター



名称	電話	名称	電話
鎌倉市社会福祉協議会	0467-61-2600	みどりの園鎌倉	0467-62-0666
鎌倉きしろ	0467-40-4434	湘南鎌倉	0467-41-4013
鎌倉静養館	0467-23-9110	きしろ	0467-42-7503
聖テレジア	0467-38-1581	ふれあいの泉	0467-43-5977
聖テレジア 2	0467-38-6612	ささりんどう鎌倉	0467-42-3702

障害分野

基幹相談支援センター



名称	電話
鎌倉市 基幹相談支援センター	0467-39-6122

一般相談（障害福祉サービス）



名称	電話
地域生活サポート センターとらいむ	0467-61-3205
キャロットサポート センター	0467-25-3939
鎌倉地域支援室	0467-55-8878

児童分野

18歳未満の子どもに関する相談



名称	電話
こどもと家庭の相談室	0467-23-0630
かまくらこども相談窓口 きらきら	0467-61-3827

生活困窮分野

鎌倉市自立相談支援機関



名称	電話
インクル相談室鎌倉	0467-47-9291 (事務所)
	0467-46-2119 (相談電話)



「Libero かまくら」の名称について…

Libero はイタリア語で自由を意味する言葉です。

バレーボールでは Libero は、ひたむきにボールを拾って、仲間の選手（支援者）をそれぞれのプレー（支援）に専念させる役割を持つことからこの名称を付けました。



鎌倉市包括的支援体制推進事業担当 鎌倉市健康福祉部福祉総務課

☎ 0467-61-3436 メール : f-kyosei@city.kamakura.kanagawa.jp

鎌倉市相談支援包括化推進業務委託事業所 社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会

Libero かまくら

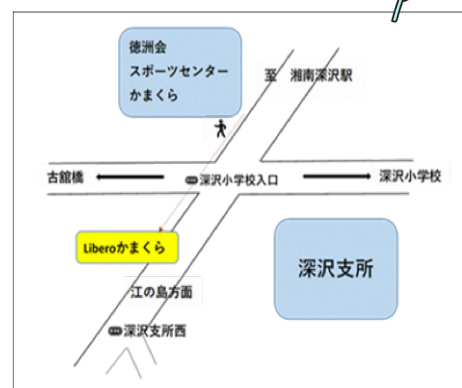
鎌倉市常盤58番地3号 安田ビル2階 202号室

☎ 0467-40-3240 FAX : 0467-40-3248

メール : libero@kamakura-shakyo.jp

時間 : 午前8時30分～午後5時15分まで

定休 : 土曜日、日曜日、祝日、国民の休日及び年末年始
(12月29日～1月3日)を除く



※駐車場、駐輪場がありませんので
公共交通機関によりお越しください。